

令和4年度

# 全国地域づくり人財塾

共催：総務省

地域活性化のためには、様々な知識・経験を持った人が、その知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれ活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが大切です。そのような状況を生み出すために必要となる、地域づくり活動を自らの手で企画し実践できる人材、すなわち「地域づくり人」を育成するため、本講座を開催いたします。地域づくりに実績がある豪華な講師陣、そして熱い志を持つ全国からの参加者と熱い議論をしてみませんか？

## 開催要領

- 日 程** 令和4年5月25日(水)～5月27日(金) (3日間)
- 場 所** 全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分
- 対 象** 市区町村等職員・地域づくりに取り組むNPO関係者  
地方創生カレッジ受講中又は受講済みの方  
3日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。
- 募集人数** 50人 募集人数を大幅に超えた場合は、申込期限後に抽選等をさせていただきますので、予めご了承ください。  
なお、受講者の決定については、他の研修、セミナーの申込み・受講の有無にかかわらず、本研修単独で行います。
- 宿 泊** 研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。
- 経 費** 10,200円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食2回、昼食2回、夕食2回)、資料等にかかる費用です。  
なお、事前準備・事前学習及び最終日の昼食にかかる費用は含まれておりません。
- 申込期限** 令和4年4月6日(水)まで  
※申込後、4月当初の人事異動に伴う受講者の変更については、柔軟に対応します。
- 申込方法** JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。  
議員の方は、議会事務局を通じてお申し込みください。  
[Web申込み]が難しい場合は、受講申込書によりFAXでも受け付けています。  
※受講申込書はJIAMホームページの書類様式集(<https://www.jiam.jp/doc/>)に掲載しております。
- 受講決定** 受講の可否については、通常、開講日の約1か月前までに通知をお送りしておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2～3週間前までの送付となる場合もございますので、ご了承ください。  
経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。
- 事前課題** 研修受講にあたって、事前課題に取り組んでいただく予定です。詳細は受講決定通知書送付時にお知らせします。

## 問い合わせ先

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 (JIAM) 教務部  
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL.077-578-5932 FAX.077-578-5906  
[e-mail] kenshu@jiam.jp [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

14:25～17:00

講師との直接対話 ①14:25～15:35 ②15:50～17:00

受講決定通知後の事前アンケートの希望に沿って、講師ごとにグループをつくり、受講者からの質問に講師が応える形式で直接対話を行います。

直接対話は、講師の話を聞くだけでなく、他の受講者の意見を聞きながら、「みんなで学び合う場」です。

講師1 吉弘 拓生 氏 (ニューノーマル時代の地域づくりと人材育成)

講師2 鵜殿 麻里絵 氏 (地域の魅力を引き出し未来を拓く改革を)

講師3 飯盛 義徳 氏 (地域づくりのマネジメントーいかに効果的な場をつくるかー)

講師4 林田 暢明 氏 (ファシリテーションを活用した地域との協働)

講師5 堀口 正裕 氏 (関わり続けたいくなる取組みとその情報発信の重要性)

※括弧内は講義名です。

17:10～17:40

グループワーク グループワークでの成果をまとめ、発表の準備を行います。

9:00～9:25

グループワーク 2日目に引き続き、グループワーク発表に向けての準備を行います。

9:25～10:35

講師との直接対話 ③2日目に引き続き、グループに分かれ、直接対話を行います。

10:50～12:00

成果発表と振り返り 3日間のグループワークでの検討の結果を班毎に発表します。

12:00～12:30

研修アンケート記入、閉講

令和4年

5月  
26日(木)

令和4年

5月  
27日(金)

- 各講師が講義を行っている一般財団法人地域活性化センター等が提供する「地方創生カレッジ」の講座を受講したり、関係HPを参照してから、当人財塾に臨むことにより、講義への理解がさらに深まることが期待できます。

## 過去の研修受講者の声 ～研修アンケートから～

- 濃密な3日間を過ごすことで、講師との繋がりを持つことができ、有意義な研修でした。
- 人財塾に参加する前と後では、地域づくりに関する考え方がガラッと変わりました。
- 講師の先生方や他の受講生の方々の熱い話を聴き、モチベーションが高まりました。
- 講師のパワーを感じました。具体的な打ち手についてイメージできました。

- 研修内容については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。  
なお、研修についての最新情報は、JIAMホームページをご覧ください。
- 研修内容の記録を目的として、主催者側において写真撮影を行います。また、写真はHP等で掲載される場合があります。予めご了承ください。  
ただし、受講者による講義中の録音・写真撮影は、固くお断りしております。
- 当研修所では、宿泊室を全室禁煙としております。喫煙は所定の喫煙場所をお願いいたします。

JIAMメールマガジンのお知らせ

当研修所では、メールマガジンを発行しています。各研修に関する最新情報などを定期的にお知らせします。ぜひご登録ください。読者登録は、JIAMホームページで受け付けています。

令和4年  
5月  
25日(水)

11:00~12:00

**入寮受付**

11:30~

**昼食**

12:30~

**開講・オリエンテーション**

12:45~13:00

**導入講義 人材力の活性化について**

総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室「地域の人材力」向上の必要性和総務省のこれまでの取組み、参加者への期待についてお話しいたします。

13:00~14:10

**実践事例1 「ニューノーマル時代の地域づくりと人材育成」**

一般財団法人地域活性化センター 新事業企画室長 **吉弘 拓生 氏**  
1981年福岡県生まれ。九州産業大学在学中の2000年にラジオDJデビュー。取材先で出会ったうきは市の魅力に惹かれ「森林セラピー」を推進するため森林組合に入職し、その後うきは市に出向。2010年4月、うきは市役所入庁。森林セラピー推進の他、地域と人に着目した事業を展開。2015年4月、群馬県下仁田町副町長就任。地方創生と人材育成を推進。プログラミング教育、地域づくり人材育成事業や第二創業支援など、地域視点での事業を展開。企業版ふるさと納税を財源として創設した「ねぎとこんにゃく下仁田奨学金」は令和元年度地方創生大臣賞を受賞。2018年にうきは市役所に復帰後は、市文化財施設のコワーキングスペース化やサテライトオフィスの整備等ワーケーション誘致に尽力。2019年4月より現職。全国の公務員の志や思いを後押しする活動を実践している。また、総務省地域づくり人材の養成に関する調査研究会構成員をはじめとした省庁や市町村の総合戦略検討委員を務めている。総務省地域力創造アドバイザー、内閣官房 地域活性化伝道師、内閣府企業版ふるさと納税マッチングアドバイザー。

14:25~15:35

**実践事例2 「地域の魅力を引き出し未来を拓く改革を」**

株式会社エムズブランディング 代表取締役 **鵜殿 麻里絵 氏**  
兵庫県神戸市で創業1917年の老舗料亭の創設者の曾孫として誕生。大手人材派遣会社に就職し、代表室でイベントや企画に携わる。24歳で家業の4代目女将に就任。県内の老舗飲食店を残す事を目的に「ひょうご老舗会」を発足。一方でフードライターとして日本経済新聞、雑誌等に食全般を紹介するコラム連載を持ち、兵庫県の魅力をTV・ラジオ、雑誌などでPRする。その活動は国内にとどまらずCNN放送「CNNgo」では《食のナビゲーター》として地方の魅力を世界へと発信。食・観光・物産の見識者として数多くの行政の選定委員を担当。それらの経験を経て行政や地域が抱える課題を解決するため企画会社(株)エムズブランディングを設立。地域の資源を活かしたブランディング、商品開発、販路開拓などを専門に、民間企業の経営アドバイザーや行政委託事業で街の賑わい作りやアイデアの創出を手掛ける実績を持つ。2015年には兵庫県初の「ひょうご観光大使」に就任。地方における資源を海外展開やインバウンド振興に結び付ける専門知識を持つことから内閣府クールジャパン機構「地域プロデューサー」に抜擢、総務省「ふるさとづくり大賞」選定委員。他に公職多数。

15:50~17:00

**グループワーク 受講者が抱える地域活動に対する課題の解決策について検討を行います。**

17:10~17:40

**説明 「地方創生カレッジ」について**

一般財団法人地域活性化センター 理事長 **椎川 忍 氏**  
地方創生カレッジは、国の「地方創生人材プラン」に基づき、地方創生を担う人材を養成するために2016年12月22日に開講されました。184(令和4年1月現在)のeラーニング講座で実践的な知識を学ぶことができるほか、実地研修も取り入れることでより深く知識やスキルを習得できるようにする取組みです。

18:00~

**交流会** 夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

令和4年

5月  
26日(木)

9:00~9:25

**グループワーク** 1日目に引き続き、課題解決に向けた検討を行います。

9:25~10:35

**実践事例3 「地域づくりのマネジメント  
ーいかに効果的な場をつくるかー」**

慶應義塾大学総合政策学部 教授 **飯盛 義徳 氏**

佐賀市生まれ。1987年、松下電器産業株式会社入社。富士通株式会社出向などを経て、1992年、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程入学。1994年、同校修了後、飯盛教材株式会社入社。1999年、アントレプレナー育成スクールNPO法人鳳雛塾を設立。2002年、慶應義塾大学大学院経営管理研究科博士課程入学。2005年、慶應義塾大学環境情報学部専任講師就任。2008年、慶應義塾大学総合政策学部准教授、2014年、同教授、現在に至る。2015年、慶應義塾大学SFC研究所所長就任。2017年10月、慶應義塾大学総合政策学部学部長補佐就任。2021年11月、慶應義塾大学SFC研究所所長就任、現在に至る。

域学連携をはじめ、場づくりのプロジェクトを各地で実践し、地域の自走力を高める活動を展開。総務省地域力創造アドバイザー、国土交通省小笠原諸島振興開発審議会委員、高知県中山間地域活性化アドバイザー、藤沢市教育委員会委員などを務める。『社会イノベータ』(単著、慶應義塾大学出版会)、『地域づくりのプラットフォーム』(単著、学芸出版社)、『場づくりから始める地域づくり』(編著、学芸出版社)など著書多数。

※参考 慶應義塾大学飯盛義徳研究室 (<http://isagai.sfc.keio.ac.jp/>)

【地方創生カレッジ(<https://chihouseusei-college.jp/>) 講座No.57】

10:50~12:00

**実践事例4 「ファシリテーションを活用した地域との協働」**

地域力創造アドバイザー/TAO 代表 **林田 暢明 氏**

1977年生、福岡県北九州市出身。日本銀行、政策シンクタンクを経て2005年、福岡にTAO CAFEを創設。2011年からは東京と福岡の2拠点居住を実践しながら、飲食店を地域の核とした活性化や人材育成に取り組むモデルを各地でサポートしているほか、ベトナム・ホーチミン市にもUTAKATA BARをオープンするなどアジアに進出。近年では、ファシリテーションを活用した地域づくりと教育分野に注力しており、角川ドワンゴ学園N高等学校顧問、北九州市立大学ビジネススクール特任教授として教鞭も執るほか、福岡放送(FBS)「めんたいワイド」レギュラーコメンテーター(木曜)としても活躍するなどマルチな活動を展開している。今回の講座では、地域づくりを進めていく上で、「小さな拠点」とそこに関わる人の関係性について、ファシリテーションが果たす役割とその重要性について「多摩市若者会議」を事例に解説していく。

13:00~14:10

**実践事例5 「関わり続けたいくなる取組みとその情報発信の重要性」**

URNSプロデューサー/株式会社第一プログレス 代表取締役社長 **堀口 正裕 氏**

URNSプロデューサー、株式会社第一プログレス代表取締役社長、総務省地域力創造アドバイザー、TOKYO FM「Skyrocket Company スカロケ移住推進部」、「デュアルでルルル」ゲストコメンテーター、国土交通省 二地域居住等の推進に向けた有識者委員、国土交通省 地域づくり表彰審査委員。

ラジオ、テレビ出演他、全国の地域活性事例についての講演多数。全国各自治体の移住施策に関わる。新しいライフスタイル、自立した自分らしい豊かな暮らし方、生き方を追求し、雑誌「tocotoco」「カメラ日和」「LIVES」等の創刊に尽力。

東日本大震災後、これからの地方との繋がりと、多様化する時代に合った自分らしい生き方、働き方、暮らし方の選択肢を多くの若者に知って欲しいとの思いから、2012年6月「URNS」を企画、創刊。「URNSカフェ」や「URNSツアー」、「URNSのがっこう」といった、地域と都市の若者をつなぐ各種イベントを展開。地方の魅力は勿論、地方で働く、暮らす、関わり続ける為のヒントを発信している。